

保健分野「傷害の防止」

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力

主体性・積極性

日時：平成29年9月25日（月）5校時

学級：2年A組（男子22名，女子16名 合計38名）

場所：2年A組教室

1 単元について

(1) 単元観

保健分野では、個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることを目標としている。

傷害の防止について理解を深めることができるよう、内容が次のように構成されている。

- ・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。
- ・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。
- ・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。
- ・自然災害による傷害の多くは、災害の備えておくことや安全に避難することによって防止できること。
- ・応急手当てを適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。など以上の内容を学習することで、現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に的確な思考・判断を行うことができるようになることをねらいとしている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、班活動で積極的に話し合うことができ、発表なども活発に行うことができる。しかし、一人で考えるのが苦手な生徒や、なかなか話し合いに参加できない生徒もいる。

保健体育の授業のアンケートの結果では、「体育分野の授業は好きである。」という質問に対して肯定的回答は、76.3%であったが、「保健分野の授業は好きである。」という質問に対する肯定的回答は、65.8%であった。このことから、保健分野に対して少し苦手意識があることがわかる。

また、「保健分野の授業は自分のためになると思う。」という質問に対して、肯定的回答は、94.7%であった。しかし、「保健で習ったことを実生活に生かしている。」という質問に対する肯定的回答は、84.2%と数値が低かった。保健分野の学習内容が自分のためになると思っても、実生活に生かせていない生徒がいる。

(3) 指導観

本単元では、様々な場面における傷害の発生要因を理解させ、それらに対してどのようにすれば防げるのかを考えさせたい。そのために、まずは個人でしっかり考えを深めさせてからグループで話し合うといったスモールステップで活動を進めていく。また前述したとおり、一人で考えるのが苦手な生徒もいるので、ヒントを与えたり、適宜声かけを行ったりして支援していきたい。

学んだことをどのように実生活に活かすことができるかという所まで考えさせるため、家庭学習へのつながりを意識的に行う。

本校の研究①～③に関わって、次のような手立てをしていきたい。

研究①導入時に意欲を持たせる工夫

- ・自然災害が起きた時にどのような行動とれば良いか、自分が「今」知っている知識を聞きだす。

研究②学び合いの工夫

- ・ ヒントをもとに個人で考えた後に、グループ内で話し合う。
- ・ グループ内での役割をはっきりさせ、話し合いがスムーズに行えるようにする。
- ・ ホワイトボードを活用し、グループ内で共有できるようにする。

研究③家庭学習とのつなぎの工夫

- ・ 自宅で自然災害に備えていることがあるか、調べてくる。

2 単元の目標

傷害の防止について理解を深めることができるようにする。

3 評価規準

【単元の評価規準】

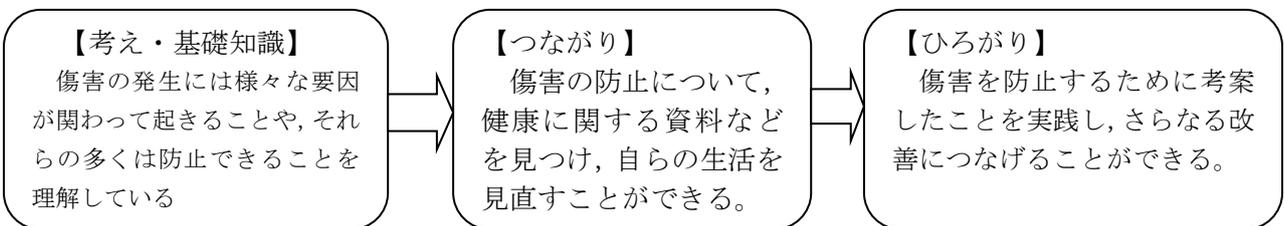
ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・表現	ウ 健康・安全についての 知識・理解
①傷害の防止について、健康に関する資料を見たり自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①傷害の発生要因や防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ②傷害の発生要因や防止について、学習したこと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①傷害の発生要因や防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ②交通事故などによる傷害の発生要因や防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ④応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

4 本校において育成しようとする資質・能力

(○印は本単元において育成しようとする資質・能力)

スキル	思考力・判断力・表現力	○	論理的に思考し、目的や意図に応じて自分の考えをまとめたり、発表したりする力
意欲・ 態度	主体性・積極性	○	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む生徒
価値観・ 倫理観	自己理解・自らへの自信		自分の長所や短所を理解し、自己の生き方を考える力

5 単元のICEモデルイメージ



6 指導と評価の計画（全10時間）

時	学習内容	評 価			
		関	思	知	
1	傷害の原因と防止	◎		○	ア ①傷害の防止について、健康に関する資料を見たり自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ウ ①傷害の発生要因や防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。
2	交通事故の現状と原因		◎	○	イ ①傷害の発生要因や防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ウ ②交通事故などによる傷害の発生要因や防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。
3	交通事故の防止	○		◎	ア ②傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ウ ②交通事故などによる傷害の発生要因や防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。
4 ・ 5	犯罪被害の防止	○		◎	ア ①傷害の防止について、健康に関する資料を見たり自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ウ ①傷害の発生要因や防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。
6 ・ 7 【本時】	自然災害に備えて		◎	○	イ ①傷害の発生要因や防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ウ ③自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。
8 ・ 9 ・ 10	応急手当の意義と基本	○		◎	ア ①傷害の防止について、健康に関する資料を見たり自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ウ ④応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

7 本時の学習（7時間目／全10時間）

(1) 本時の目標

地震による傷害の防止を分類し、説明できるようになる。

(2) 教科の評価規準

◎【健康・安全についての思考・判断】

傷害の発生要因や防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。

(3) 準備物

ホワイトボード、マーカー、ヒントカード

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への 指導の手立て) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準 教科の観点 (○◎) (評価方法)
導入	1 挨拶・忘れ物点検。 2 前時の復習を行う。	◇自然災害について、前時の復習をさせる。	
	3 「今」自然災害が起きたら、自分はどんな行動をとるか考える。	・逃げる。 ・助けを呼ぶ。 ・わからない。	
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題の設定</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題</div> 地震による傷害の防止を分類し、説明しよう。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">整理分析</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">情報の収集</div>		
	4 地震による傷害には、どんなものがあるか、考える。また、それらの防止策も考える。	◇個人思考で考えさせる。 ・タンスが倒れてきて、けがをする。 ・火事で火傷する。 ・ドアがゆがんで、出られなくなった。 ◆5分後にヒントカードを配り、ヒントカードから考えさせる。	◎【健康・安全についての思考・判断】 傷害の発生要因や防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ・創造・表現</div>		
まとめ	5 個人で考えたことをグループで、まとめる。	◇ワークシートにまとめさせる。	
	6 グループでまとめたことを発表し、グループング行う。	◇グループでの発表の中から、3つ（事前・発生時・事後）の仲間わけができることに気づかせる。 ◇生活班（4～3人）でホワイトボードにまとめさせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">振り返り</div>		
	6 振り返りを行う。	◇自分の言葉で3つの場面での防止策についてのまとめをさせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【生徒まとめ例】 ・事前には、日頃から災害時の安全に備えておく。発生時には、周囲の状況を判断し、安全に行動する。事後は、正確な情報を把握し、二次災害にも備えることが大切である。 </div>		
	7 家庭学習へのつなぎ	◇ワークシートに振り返りを書かせる。 ◇家に災害に備えて行っていることがあるか確認させる。	

研究①意欲を持たせる

研究②学び合いの工夫

研究③家庭学習とのつなぎ